

令和7年度学校評価計画書

学校名（宮島小・中学校）

| 評価計画                      |                                |                                                                            |                                                            |     | 自己評価     |          |    |    |          | 学校運営協議会<br>委員評価コメント | 改善方策 |
|---------------------------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-----|----------|----------|----|----|----------|---------------------|------|
| 中期経営目標<br>(めざす児童生徒像)      | 短期経営目標<br>(めざす児童生徒像)           | 目標達成のための方策                                                                 | 評価項目・指標                                                    | 目標  | 中間<br>8月 | 最終<br>2月 | 達成 | 評価 | 結果と課題の分析 |                     |      |
| 小中一貫教育のよさを最大限に生かす学校運営     | ◎4・3・2制のメリットを生かして、9年間で育てる。     | コミュニケーション能力(助け合い・認め合い・支え合い)を育成するために、ブロック活動を充実させる。                          | 「ブロック目標を達成することができた。」と答えた学園生の割合(4・7・9年)                     | 85% |          |          |    |    |          |                     |      |
|                           |                                |                                                                            | 「ブロック目標を達成しようとして意識することができた。」と答えた学園生の割合(1・2・3・5・6・8年)       |     |          |          |    |    |          |                     |      |
|                           |                                |                                                                            | 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査生徒質問紙)          | 85% |          |          |    |    |          |                     |      |
| 地域の財産(歴史、文化、自然)を学ぶ教育体系の確立 | ◎自己の将来、宮島の将来を考える力を育てる。         | 主体的・協働的に課題を解決していける児童生徒の育成を目指し、対話を通して考えを深めさせ、自分の考えを表現できる力を育てるための校内研究の充実を図る。 | 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と答えた学園生の割合 | 83% |          |          |    |    |          |                     |      |
|                           |                                |                                                                            | 「自分の考えを周りの人へわかりやすく伝えようとしている。」と答えた学園生の割合                    | 83% |          |          |    |    |          |                     |      |
| 多様な学園生の育ちの場の提供            | 基本的な生活習慣(あいさつ)の確立をさせる。         | 発達段階に応じた行動目標を児童生徒に提示し、その姿を日々評価する。                                          | 「あいさつは、自分から進んでします。」と答えている学園生の割合                            | 90% |          |          |    |    |          |                     |      |
|                           | 多様な価値を受け入れ、認め合える集団をつくる。        | 学園生の特性に応じた支援について外部の専門家と意見交換し、内容や支援方針を全教職員で共通理解する。                          | 「宮島学園は、安心して過ごすことができる学校です。」と感じている学園生の割合                     | 90% |          |          |    |    |          |                     |      |
| ワークライフバランスのとれた元気な職場       | 目的やスケジュールを意識することで、組織的な取組を実施する。 | 目標達成に向け、行事のスケジュールを意識し企画運営委員会、分掌会及びブロック会を計画的に実施し、状況を共有する。                   | タイムマネジメントを意識することで、「子どもと向き合う時間が確保できている」と感じている教職員の割合         | 70% |          |          |    |    |          |                     |      |
|                           |                                |                                                                            | 「宮島学園で働いてよかった」と感じている教職員の割合                                 | 90% |          |          |    |    |          |                     |      |

※ この様式はあくまでも「参考様式」であり、これに示した項目が反映されていれば別様式でもよい。ただし、次の5点には十分留意すること。

○ 短期経営目標のうち、本年度の重点目標については、◎印で示し、◎印は全体を通して3項目以内とする。

- 重点目標を中心に「評価項目・指標」（めざす姿）を精選し、取組を進めること。
- 別途提示している「廿日市市学校評価共通項目」が「評価項目・指標」に含まれていることを確認すること。（【市共通項目】⇒第3期廿日市市教育振興基本計画「確かな学力を育む教育の推進」）
- 「不登校児童生徒が〇人以内」等逆転項目の評価については、2～4段階で評価できるよう学校で定める。